

授業概要

『源氏物語』のいくつかの場面を取り上げ、講読します。

『源氏物語』は、平安時代中期に紫式部によって記された長編物語です。この授業では、特に色彩や装束表現に目をとめて、物語の各場面を味読していきます。また、平安時代後期から江戸時代に制作された源氏絵や、『源氏物語』をモチーフとした工芸品を紹介し、大和絵の鑑賞方法や、物語が工芸品の中でどのようにデザイン化されているのかといった点についても講義します。

『源氏物語』は、色彩や装束を効果的に創作に生かした初期の物語としても、大いに注目されています。紫式部は色彩を通して、どのような新しい表現方法を開拓したのか、また、『源氏物語』が後代の人々にどのように受け止められたのか、その一端を学ぶ機会としてください。

授業計画

第 1 回	平安時代の文学史と『源氏物語』の成立について
第 2 回	作者・紫式部と、その時代について
第 3 回	『源氏物語』全体の構成について
第 4 回	紫のゆかり① 桐壺更衣の死と藤壺宮の登場
第 5 回	紫のゆかり② 藤壺宮から若紫へ
第 6 回	紫のゆかり③ 平安時代の和歌に見る「紫」への憧れ
第 7 回	赤い鼻の姫君・未摘花
第 8 回	平安時代における草木染めについて、および紅花染色のデモンストレーション
第 9 回	光源氏の邸宅・六条院に住む女性たち① 春の御方・紫の上
第 10 回	六条院に住む女性たち② 夏の御方・花散里
第 11 回	六条院に住む女性たち③ 秋の御方・秋好中宮
第 12 回	六条院に住む女性たち④ 冬の御方・明石君
第 13 回	源氏絵の世界① 土佐派、狩野派の物語絵
第 14 回	源氏絵の世界② 琳派の物語絵
第 15 回	『源氏物語』をモチーフとした中世・近世の工芸品
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ① 日本古典文学史における『源氏物語』の位置づけや、作者、時代背景を理解する。
- ② 授業で扱った場面の内容や読解のポイントを理解する。
- ③ 源氏絵や、『源氏物語』をモチーフとした工芸品の特徴や鑑賞のポイントを理解する。
- ④ 上記①～③を通して、中等教育学校における国語科授業に資する知見を身につける。

履修上の注意

毎回、授業終了時にワークシート（講義内容の要約と、興味をもったこと、疑問に思ったことを記す）を提出していただきます。また、授業の中で、適宜受講生の皆さんの意見や感想を求めますので、主体的な学習意欲をもって授業に臨んでください。

予習復習

予習：授業時に、次回扱う場面を指定するので、テキストを読み、分からないところをチェックする。

復習：ノートやプリントをまとめ直し、分からなかった点は教員に質問するなどして明らかにしておく。

評価方法

授業への参加態度 30%、毎回提出するワークシート 30%、期末テスト 40%を目安として総合的に評価します。

テキスト

テキスト：『源氏物語』（ビギナーズ・クラシックス日本の古典、角川ソフィア文庫、2001年）

参考文献：田口栄一監修『すぐわかる源氏物語の絵画』（東京美術、2009年）の他、授業時に適宜紹介します。